

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



October

S	M	T	W	T	F	S	
			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

October 2024 vol.126

◆ 灯明台跡

所在地：三重県伊勢市大湊町

交通：三重交通バス「大湊」駅東約400m

伊勢市の大湊は、宮川、五十鈴川、勢田川が作る三角州に形成された町で、上流の大台ヶ原や大杉谷に豊富な原始林が育ち、水運を利用して木材を容易に入手できたことなどから、かつては造船の町として栄えました。戦国時代には、織田信長が九鬼嘉隆に命じて造らせた大船や、豊田秀吉の朝鮮出兵に伴って九鬼氏が造った日本丸が大湊で造られました。また、江戸時代には、おかげ参りの物資需要を満たすため大いに栄え、廻船問屋や船宿が軒を並べました。

地形的には、伊勢湾内であるものの比較的津波が高くなる場所で、土地が低く地盤が軟弱な三角州であったことから、南海トラフで地震が発生するたびに大きな被害が発生してきました。明応7(1498)年の明応地震では、1,000軒の家が流され、5,000人が命を落とし、宝永4(1707)年の宝永地震では、5mを超える津波が襲ったと伝わっています。三重県が2014年に公表した南海トラフの地震被害想定によれば、大湊では1時間以内に津波が到達し、津波高は5～6m、浸水深は2～5mに及ぶとされています。

南海トラフで発生した地震のひとつ、嘉永7(1854)年の安政東海地震でも、大湊には5mを超える津波が襲来したとされています。港町として栄えた大湊には、弘化3(1846)年に設置された石造の高さ6.3mに及ぶ大きな灯台がありましたが、安政東海地震で大湊を襲った津波はこの灯台を飲み込み、根元から折損し、海へと押し流しました。灯台があった場所には、その基礎部分の石垣が残されています。

大湊には伊勢神宮外宮の末社・志宝屋神社があります。海路守護の神・塩土老翁を御祭神とする志宝屋神社は延暦23(804)年以前の創建とされますが、明応7年の明応地震による津波で流失しました。当時は全国的に遷宮もままならない財政状況の神社が多い中でしたが、寛永21(1644)年に再興され、以後、式年遷宮の際に建て直されています。

大湊では、こうした過去の津波被害の教訓、東日本大震災の教訓などを受けて、津波避難タワーの設置や一時避難場所となる施設への階段の設置などが進み、津波襲来時の避難場所が整備されました。こうしたハード面の整備と合わせて、災害が起こったときに、住民の方々や地域を訪れた方々が、実際に避難行動をとれるよう訓練を行うなど、地域で防災の啓発が進められています。

過去に繰り返し災害に見舞われてきた大湊地区ですが、被災場所に看板を設置するなどし、教訓を後世に伝えていこうとしています。こうした教訓を踏まえ、災害が発生したら何が必要になるのか、どんな問題が出てくるのか、自分のこととしてしっかり考えておく必要があります。



(上) 灯明台跡看板
(下) 志宝屋神社
写真提供(2枚共)：
(一社) 中部地域づくり協会



災と Seeing (10) 伊勢湾の津波と大湊 (http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_10.html) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●大島八幡社 (vol.10,2015.2)

所在地：西尾市吉良町大島

交通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅西約2.5km

矢作川は、長野県の本巣山脈に発し、西三河地方を大きく蛇行しながら三河湾へと注ぐ大河であり、古くは御川とも呼ばれ、「三河国」の地名も矢作川の流れる地域を指して付けられたものといわれています。矢作川はもともとは現在の矢作古川の場合が本流でしたが、徳川家康の命による治水工事により矢作新川が掘削され、現在の矢作川が本流となり、旧河道が矢作古川と呼ばれるようになりました。

岡崎平野を中心に平野のイメージが強い西三河の三河湾周辺地域ですが、地形図を見ると低地は矢作川及び矢作古川河道沿いが中心で、大部分が台地や丘陵地、山地となっており、明治用水を始めとする用水が整備されています。

この矢作古川の下流に大島八幡社があります。かつての

矢作川だった矢作古川の流域は、上流部から運ばれた土砂による沖積平野が発達した低地で、高潮や台風の影響を受けやすい地域であり、下流に位置する大島八幡社は、たびたび高潮や台風の影響を受けてきました。境内には明治22年高潮、昭和28年13号台風の記念碑が建っています。

また、地震による津波でも大きな被害が発生してきた場所で、嘉永7(1854)年の安政東海地震の際の被害は、大島八幡社所蔵の棟札に「八幡社社殿や浄泉院の庫裏、村の家屋54軒などが倒壊し、大津波が押し寄せた／藩主から見舞金が下された」ことが記されています。本殿はその後、昭和20(1945)年の三河地震で倒壊しています。(棟札の記録については「大島のあゆみ(大島歴史編集委員会、平成21年)」で見ることができます)



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.10 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★伊勢まつり

伊勢まつりは、毎年10月第2日曜日とその前日の土曜日に開催される、「見て」「参加して」「楽しめる」伊勢志摩地域最大級の市民まつりです(2024年は10月12日、13日)。近鉄・JR伊勢市駅から県道鳥羽松阪線(一之木交差点、尼辻交差点)、高柳商店街のエリアが会場で、期間中には15万人が訪れます。

初日の土曜には神宮初穂奉納御輿、ねぶた飾り車の巡行や伊勢音頭、地元小学生によるパレードなどが行われるほか、夜には手筒花火も披露されます。



観光三重 HP より

日曜も伊勢音頭やマーチングパレード、和太鼓演奏などが続き、両日とも飲食店や地場製品の販売などの出店があります。飲食・展示・体験などのブース出展や演目披露など、2日間で延べ200近い団体が参加し、会場一帯が大いに賑わいます。

～鉄道で巡る～

伊勢市駅は、車で約10分の伊勢神宮の内宮・外宮を始



め、伊勢志摩への玄関口となる駅で、近鉄の山田線とJR東海の参宮線の2路線が乗り入れています。

駅構内には観光案内所があり、観光スポットの案内など、伊勢志摩観光の情報を入手することができます。

大湊へは、伊勢市駅前のバス停から三重交通バスで約30分です。

●ブレイクタイム●

♪大湊海岸

大湊は、宮川と五十鈴川の河口に形成された三角州で、海岸線がきれいに整備されており、その一部はハマヒルガオの群生地になっています。Amazonプライムビデオの『日本をゆっくり走ってみたよ～あの娘のために日本一周～』では、ハマヒルガオが咲き誇る浜辺で、主人公の濱田岳さんがテントから起きるシーンと、夜のテントの中で、携帯に映る好きな女の子に唇を近づけるシーンが撮影されました。初日の出の絶景スポットでもあり、元日には多くの方々が訪れます。



伊勢志摩観光ナビ HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年10月)

